

大島特産園芸作物における生産振興技術対策

【研究概要】

主要品目である、ブバルディア、クチナシ等の生産振興のための試験研究を行う。

- (1) ブバルディアの開花調節技術について、開花促進処理ではシェードの裾を 15cm 上げることで、シェード内温度上昇を抑制することが可能である。花芽分化抑制は、60W 相当の電球色 LED による 24 時から 5 時の暗期中断処理が最も効果的である。
- (2) クチナシのポストハーベスト技術の開発では、茎の下部を斜めに切る・たたく・割る・焼くといった水切り処理では、萎れや黄化やベントネックは防げない。観賞期間を長くするには、水切り処理以外の後処理方法で水揚げを改善する必要がある。隔離床栽培技術の開発では、露地栽培と比較して生育や収量が劣るが、隔離床栽培で収量が最も多いアクアフォーム区の場合、植栽密度を露地栽培の 2.2 倍以上にすると露地栽培と同程度の収量になると推定された。
- (3) 地域特産野菜等の病害虫の発生状況を調査した。2024 年春の幼虫発生密度は、利島において、ハスオビエダシャク・トビモンオオエダシャクともに横ばいであった。大島においてはエダシャク類の発生は少なかったが、一方でチャドクガの発生が増加した。